

日本ELVリサイクル機構 ニュースレター (ELV Newsletter)

《編集・発行責任者》日本ELVリサイクル機構 広報部会長 永田 則男

一般社団法人 日本ELVリサイクル機構 〒105-0004 東京都港区新橋3丁目2-2 一美ビル5F

Tel:03-3519-5181 Fax:03-3597-5171 メール: jaera-homepage@elv.or.jp URL: http://www.elv.or.jp/

世界初 歩行者用エアバック搭載車
エコカーの開発が進む一方で、安全機能を重視した車の開発が進んでいきます。その一つが、高速走行時の衝突回避技術で、警報でドライバーに知らせるとともに、強力な自動ブレーキを作動させ、追突回避を補助するというものです。アイサイトの低速での実現化が成功している今、各社技術開発競争が激しくなっています。また、車の前後に障害物がある場所で急発進させた場合、エンジン制御し、自動的にブレーキをかけるというものも開発されています。この開発により、ブレーキとアクセルを踏み間違えるといった事故も少なくなると思われます。

先だっては、歩行者用エアバッグ搭載車が発売され、注目を浴びています。歩行者が車と衝突したとき、搭載されたセンサーが人間だと感知すると、フロントガラスの下側からエアバッグが膨らむのです。【オプショニング・ボルボ・カース】

しかしながら、車の開発だけが重要ではありません。私たち乗る側が、常に安全を心がけて、車の運転をすることが大切なのだと思います。

伊地知 志郎（広報部会・鹿児島）

目次

巻頭言	1
経済活動実態調査	1
ELV機構便り	
未来政策部会報告	2
リサイクル技術部会報告	2
山梨県組合40周年式典	2
宮城県研修会報告	2
ELV機構安全作業指導員紹介	3
(編集企画) 日本再生への道第5回	3
鉄スクラップ市場最新情報	4
編集後記	4
震災前後のスクラップ市況の動き	5
箸休め	5

ELV機構会員 経済活動実態調査

～平成24年10-12月分（平成23年同期と比較）～

昨年6月に第一回目が実施された本調査は、登録していただいている各地の地域団体に推薦いただいた会員事業者53社に対して四半期ごとにアンケート調査を実施し、現在と一年前の同期を比較して、ビジネス環境の変化を把握しようというものです。業界の実態を正しく理解し、会員の皆様が、自らの事業運営に際しての判断材料としてご利用いただくものです。

今回の調査は、第三回目として昨年12月に実施したものです。第一回目の結果(本誌昨年12月3日配信Vol.43参照)と比較してみると、「入庫台数が増加した」との回答は、6月の

55%から12月は44%と減少、一方、「減少した」との回答は18%から38%と大幅な増加を示しており、入庫難がさらに進んでいることが推測できます。また、入庫時の仕入れ単価で比較すると、昨年6月では33%の回答者が「増加している」と回答したのに対して、今回、増加したと回答したのは48%と割高感が蔓延しているように見えます。

国内部品販売については、「増加している」との回答は横ばいにもかかわらず、「減少している」との回答は10%弱増えており、円高の中、企業間格差の拡大が著しいものと思われます。□

《自由回答欄》（抜粋）

- 積雪量の多い地域では、処理作業が困難で引取りから引き渡しまでの期間延長を要求する。
- 解体業の引取り行為が永久抹消となるような仕組みに変えるべき。
- 整備業者、板金業者に対する自リ法順守の指導強化を望む。
- エアバッグ類の違法処理に対しては、厳しく臨んでほしい。作動契約停止では手ぬるい。
- ネットオークションで堂々と中古エアバッグが販売されているのになぜ取り締まらないのか。
- リユースを促進するための具体的方策が見えてこない。やる気があるのか疑わしい。
- 昨年実施した「会員交流会」のような機会をもっと増やしてほしい。

設 問	仕入れ関連(車両)					
入庫台数	増 加	44%	変化なし	18%	減 少	38%
今後3カ月の入庫見通し	増 加	17%	変化なし	35%	減 少	48%
仕入単価	増 加	48%	変化なし	28%	減 少	22%
市場規模売上関連(部品)						
国内部品販売	増 加	26%	変化なし	26%	減 少	46%
今後3カ月の国内部品販売見通し	増 加	24%	変化なし	41%	減 少	35%
輸出部品販売	増 加	15%	変化なし	33%	減 少	50%
今後3カ月の輸出部品販売見通し	増 加	20%	変化なし	45%	減 少	35%
市場規模売上関連(資源)						
資源販売	増 加	13%	変化なし	30%	減 少	55%
今後3カ月の資源販売見通し	増 加	33%	変化なし	32%	減 少	35%
その他	増 加	9%	変化なし	37%	減 少	24%

～ELV機構便り～

～第4回未来政策部会 開催報告～

平 成25年2月20日(水)、ELV機構本部会議室において、第4回未来政策部会が開催されました。(開会10:00) 今回の部会では、法施行10年目までに行われる、自動車リサイクル法の評価と見直しに向け、ELV機構としての考え方、取り組むべき方向性について議論を行いました。また、午後からは、経済産業省自動車課の小野 正 自動車リサイクル室長をお招きし、「自動車静脈産業に関する考察」の講演会も併せて開催しました。小野室長は今後の自動車静脈産業について、さまざまなデータに基づいたご自身の考察を語ってくださり、リサイクル部品の普及に向けたターゲット市場の見極めに関しては、広域エリア重視から地域レベル重視へと視点を転換することが重要であるとし、それに合わせて地域内連携体制の構築の必要性等について問題提起をされていました。さらにリサイクル部品の信頼性確保のため統一的規格の整備が必要との指摘がありました。講演後は質問のための挙手が絶えず、非常に有意義な講演会となりました。(参加者19名)



小野室長による講演会風景

～第8回リサイクル技術部会 開催報告～

平 成25年2月21日(木)13:30よりELV機構本部会議室において、第8回リサイクル技術部会が開催されました。今回は、主に「自動車リサイクル士制度」のカリキュラムについて議論がなされ、カリキュラム項目の再確認やそれに沿ったテキスト内容の検討などが行われました。また、認定講習会に関しては、講習の実施方法や会場の想定などの具体的な事項についても議論が及びました。なお、経済産業省・環境省のご配慮により、全国8ブロックで2月18日(月)から順次開催された都道府県・自治体の自動車リサイクル関係者との会議(行政連絡会議)において、同制度の説明をしていただきました。□



地域活動報告

山梨県カーリサイクル協同組合 40周年記念式典 ～開催報告～

平 成25年2月22日(金)、山梨県甲府市のホテル談露館にて、山梨県カーリサイクル協同組合(理事長:保坂勇氏)が40周年記念式典を開催。①自動車再資源化協力機構 須藤業務部長/理事をはじめ、②山梨県森林環境部環境整備課、③中小企業団体中央会、④自動車販売店協会、⑤整備振興会、⑥関東ブロック各団体等より多くの方々のご参加がありました。ELV機構からも、吉川副代表理事、金澤ブロック長会議長、奥野事務局長他が参加しました。今回の記念式典では、同組合の活動報告(富士山文化遺産登録に向けた廃タイヤ回収の活動、放置車両撤去活動、東日本大震災ボランティア活動、ELV機構が環境省より受託している自動車リサイクル連携高度化事業における取り組み)や山日YBS厚生事業団へ義捐金の寄贈などが行われました。地元ディーラー(14社)、自動車販売店協会、整備振興会、自動車車体整備協同組合をお招きしての盛大な式典は他に類を見ないものであり、このような地域内の関係者とのつながりは業を行う上で非常に重要であると感じました。業界の発展のためにも、こういった交流が広がっていくことを願います。□



挨拶に立つELV機構
河村二四夫代表理事

宮 城県中古自動車解体再生部品卸協同組合(平地健理事長)では、研修会「安定経営のための事業計画の立て方」を開催しました。

宮城県中小企業団体中央会の全面的ご協力により、2月12日、2月25日、3月4日の3回シリーズで実施された研修会は、「安定経営のための事業計画の立て方」と題するもの。講師は仙台で税理士行政書士事務所を開業される吉田徹氏で、決算書の基本的な仕組みの説明から始まり、短期事業計画の立て方、中長期事業の立て方に至る大変丁寧な指導がありました。

自社の経営状況を把握し、対策を練り、さらには今後の目標を設定する事は安定した経営に欠かせません。その為には今回のような決算書を読み取る内容の研修会はとても有益です。

参加した組合員の皆さんはテキストと電卓をこらみつつ真剣に取り組んでいました。特に若い世代の方達にとっては貴重な内容だったようです。□

●関連写真左欄下

ELV機構安全作業指導員のご紹介

本誌Vol. 38(2012.8.10配信)にてお伝えしましたが、ELV機構では、2011年度より自動車再資源化協力機構(自再協)の要請を受け、「安全作業指導員制度」を運用してまいりました。

自再協では、エアバッグ類の適正処理普及の観点から、新たに車上作動処理を行おうとする解体業者に対して規定の研修コースの履修を契約の条件としております。この研修コースの教官となるのが「安全作業指導員」であり、jaeraインストラクターの中から一定の基準に適合したものが認定される仕組みがあり、現在、認定安全作業指導員は全国で16名に上っています。

この安全作業指導員制度は、これまで培ってきたELV機構と外部関係機関との信頼関係に基づくものであり、今後一層の発展が望まれます。

本誌では、安全作業指導員として、自社業務に加えて新規参入業者に対する指導業務で頑張っている指導員の皆様を順にご紹介することとなりました。毎号、3~4名の指導員にご登場いただくことにいたします。

なお、指導員の皆様には以下の質問にご回答いただいています。

Q1:安全作業指導員を引き受けたきっかけは何ですか？

Q2:安全作業指導員になって苦労したことは何ですか？

Q3:安全作業指導員になって良かったこと、学んだことは何ですか？

Q4:今後の抱負を聞かせてください。

指導員の皆さんです (敬称略)

◆北海道BK

佐藤 文彦 (株)協栄車両
吉岡 篤史 (有)二協自動車商会
高橋 大樹 (株)高橋商会

◆東北BK

平地 健 (有)平地商会
呉宮 廣哉 (株)リーテックス

◆関東BK

有原 良 (株)有原商会
奥津 智昭 (有)旭自動車商会
石井 恒治 (株)栃木パーツ

◆中部BK

池田 博一 ハリタ金属(株)
杉山 正憲 (有)近松商会

◆近畿BK

杉田 初見男 (有)山本解体
◆中・四国BK

大黒 昭司 (有)西川商会
篠原 裕紀 四国交産(株)

◆九州BK

池田 済 (株)久保田オートパーツ
久原 康己 住之江金属

◆沖縄BK

松田 和生 MR解体工業

杉山 正憲さん (有)近松商会 (岐阜県)

《回答》

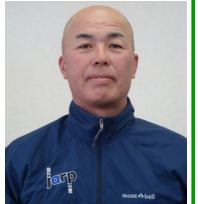
1. 昔から岐阜県ELVインストラクターを務めており、金森理事のお誘いもあって安全作業指導員を引き受けました。今は喜んで業務に取り組んでいる自分がいいます！
2. 苦労したことはありません。
3. 指導終了後、同業者さんを見学させていただき勉強できることと、自動車リサイクル法への考え方が各事業所さん毎に異なることを理解したことです。
4. 指導させていただいた業者さんが、立ち入り監査時に指摘等受けないよう、分かり易い説明に心がけます。



大黒 昭司さん (有)西川商会 (鳥取県)

《回答》

1. 少しでも多くの知識を吸収し、安全で正しい作業を実践して行きたいと思ったのがきっかけです。
2. 苦労している点は、やはり「伝えることの難しさ」です。「どうすれば分かり易く説明できるか」を常に考えています。また、普段は業務としていない移動報告等、事務処理についての説明には特に神経を使っています。
3. 指導員になってよかったことは、安全作業指導員講習会等で、全国の指導員との交流を通じて色々な情報、行動に接し、自分の行動改善に役立っていることです。
4. 「伝える力」のレベルアップを図りながら、自社は勿論のこと、他社様でも「安全で正しい作業」が実践されるよう、微力ながらお手伝いしていきたいと思います。



有原 良さん (株)有原商店 (東京都)

《回答》

1. ELV機構が業界団体として認められた結果だと思い嬉しかったから。
2. 自分の仕事を休まなければならないことと、指導先の解体業者さんに短時間で必要な情報をキチンと理解してもらうための説明方法(話し方、表情等)
3. こんな自分でも公の役に立てていると思えること。他人へ物事を伝えることの難しさを知ったこと。
4. 出来る限り頑張って、解体業の仲間の力になりたい。



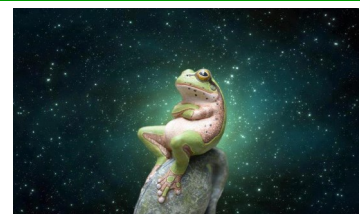
《編集企画》 ~日本再生への道~

第5回

日本を原発のない国にする。確かに理想ではありますが、冷静な、大人の解決が要求される問題です。そうでないと、経済の縮小が続き、世界への発言力が低下してくると、得意な技術力もない、本当に世界から忘れ去られる国にならないとも限りません。経済力、技術力により国際的な貢献を続けられるからこそ、尊敬され、いざとなった時に各国の支援が受けられるのではないかと思います。

話は変わりますが、アメリカでは再生エネルギー、クリーンエネルギー、即ち、太陽光、風力などの利用推進に対する政府の補助金を辞めてしまったという話を聞きます。政府にお金がないといえどそれまでですが、再生エネルギー事業の推進は、特に中国など海外から太陽光パネルや風車などを購入するだけでアメリカでの雇

春よ来い！



by FB

用の創出につながらないからのようです。勿論、シェールガス人気はバックアップしてのことです。シェールガスの採掘コストは、技術特許を有するベンチャー企業が特許を低価格で公開したと勝手に採掘ブームに火が付きまして。天然ガスの採掘コストが単位当たり12ドルに対してシェールガスは2.5ドル程度になるようです。これではクリーンエネルギーは太刀打ちできません。そんな中、我が国に輸入されている天然ガスの価格は17ドルで、しかも長期契約しているため、当分は高値で買い続けることになるということです。□

(第五回完)

2月第5週(3月2日)の鉄スクラップ動向
2月第5週末のH2炉前総合価格は33,267円
スクラップの荷動きが回復し、上げ一服

2月第5週の国内鉄スクラップ価格は、月末環境で鉄スクラップの荷動きが回復し、中部、関西は横ばいに推移した。関東では契約納入筋の価格改定があり、H2が上伸。一方、関東の上級品種(HS、新断)は浜値が下落した影響で値下がりした。全国的には、上げ一服感が広まったかたちだ。

2月第5週末(3月2日)のH2炉前総合価格は、前週比33円高、前年同週比1,033円高の33,267円。HSは前週比100円安、前年同週比867円高の34,867円。新断バラは前週比133円安、前年同週比867円高の35,833円だった。

◆H2の2月平均は32,142円、4カ月連続で上昇

2月平均の各品種の炉前総合価格は、昨年11月から4カ月連続で上昇した。H2は前月比2,875円高、前年同月比1,749円高の32,142円。HSは前月比2,760円高、前年同月比1,600円高の33,867円。新断バラは前月比2819円高、前年同月比1,725円高の34,892円だった。

速報 財務省・貿易統計によると、1月の日本の鉄スクラップ輸出量(HSコード7204の合計)は、前月比17.5%減、前年同月比31.6%増の73万5949トだった。国別に見ると、韓国向けが44万4930ト、中国向けが23万8322ト、ベトナムが2万5330ト、台湾が2万4872トなどとなっている。

関東地区 価格は横ばい、電炉各社は慎重様子見の姿勢
関東地区の電炉は慎重様子見の姿勢を保っている。↗

一部で建値などの値下げ対応が見られるが、大勢は足元のスクラップ購入価格を維持している。域内電炉の3月の生産量は2月比で増加する見通しで、引き合いを緩められない側面もある。こうした中、米国玉の価格が堅調なことから、強基調見通しが一部に出ている。現在の関東地区のH2炉前実勢価格は33,500～34,000円中心、高値34,500円見当。H2浜値は33,000～33,500円中心。

東海地区 メーカー入荷改善も消費見合い程度で様子見気配

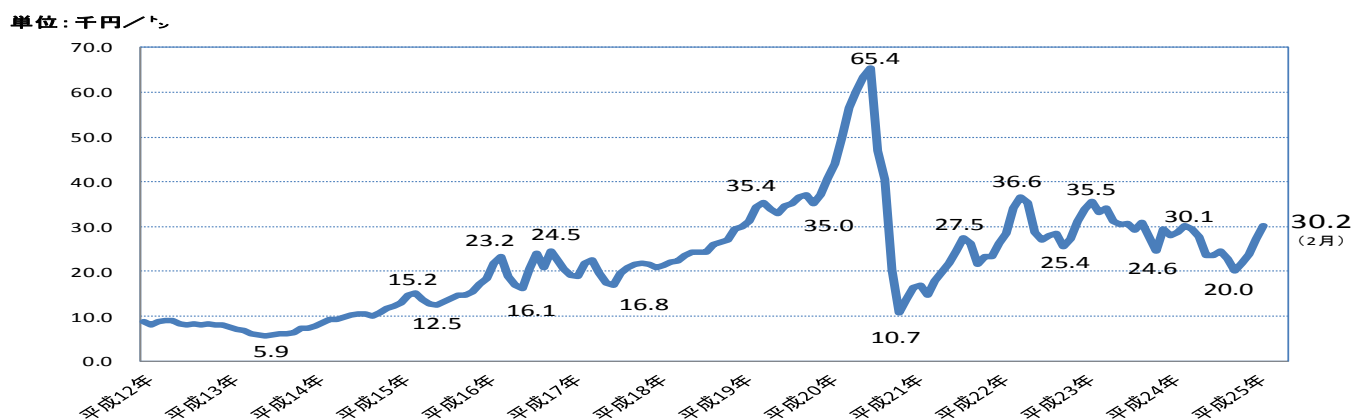
名古屋地区の電炉メーカーは、2月下旬から3月入りにかけて10日以上様子見を続けている。また業者筋も同様に22日以降は様子見に入っており、スクラップ市況は膠着状態で推移している。H2炉前実勢価格は33,500～34,500円どころ中心。関東地区と同様に域内電炉の3月の生産量は2月比で増加のところが多く、引き合いは緩まない見通しだ。なお自動車生産台数の増加で、新断スクラップの発生に堅調感が強まっている。

関西地区 高値筋なおも慎重姿勢保ち、市況は様子見
大阪地区では、使用量見合いのスクラップを確保しつつも

高値電炉筋がなおも慎重様子見姿勢を保つ展開にあり、市況は様子見の域を出ない。同地区電炉のH2炉前実勢価格は34,000～34,500円。韓国向け輸出価格の反落に伴い、一部大手が500円値下げしたものの、大勢は横ばいのままだ。姫路地区も、23日付で500円上昇の動きが見られた後は値動きがなく、H2炉前実勢価格は33,000～33,500円のままで推移している。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月5日時点のもの)

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



▼本号から数回に分けて、EIL機構「安全作業指導員」の皆さんに登場していただきました。余り知られていないプロگرامですが我々の仲間が大活躍しています。▼本号の配信日が期せずして東日本大震災発生日と重なりました。被災された方々がどんなお気持ちで二周年を迎えられたか想像するに余りあります。改めてお見舞い申し上げます。

▼本誌編集委員会では、被害が顕著であった岩手、宮城、福島各県の団体長にご参加いただき、震災から現在に至る足取りや現在抱えておられる課題、今後の取り組みなどに関しまして座談会を企画しています。次号に掲載の予定です。

▼ELV機構の新執行部発足より9カ月足らずが経過しました。その間、様々な取り組みが立ち上がり、進行しています。リサイクル技術部会による将来の「自動車リサイクル士制度」や未来政策部会における将来の業界のあり方の検討、資源循環委員会の開催のレアメタル類の再資源化と企業連携に関する取り組みなどです。これら活動に直接携っておられる方々のみならず、機構会全員の自らの活動と認識し、強い関心を持っていただきたいと思っています。□

(編集子)

2011年の東日本大震災を一つの契機として、我が国では様々な変化がありました。その内の、当業界にかかわりの深い金属スクラップ市場の変遷を日刊市況通信社の“メタル・リサイクル・マンスリー”誌2011年4月号の記事から改めて概観し、今後の参考に供したいと思います。

(編集委員会)

～震災前後のスクラップ市況の動き～

■国内

国内相場は、円高の進行もあって、世界的に高値圏に入ったことから、月初から値下がり見通しが広がり、11日に東京製鉄が購入価格の値下げ改定を実施、国内相場は下げ基調に入った。そして同日、東北関東大震災が発生、多くの被害を出した。東北電炉4社はいずれも震災と津波の被害を受け、操業を休止。一部再開した筋もあるが、復旧までには相当な時間を要する見込みだ。関東地区では北関東電炉などに被害が出たが、全体的には被害は軽微。しかし、電力不足から3月の生産量は当初予定(40万8000トン)を3割程度減る見通しだ。

また、福島原発も大きな被害を受けたことで、東日本に放射線問題が発生した。当初は混乱を極めたが、今のところ需給双方とも冷静な対応に努めており、流通は回復する方向に向かっている。

しかし、電力不足が長引くことから東日本電炉の生産が伸びない見通しとなったため、国内相場は大幅に下落した。2月末に1トン39,533円だったH2炉前総合価格は、3月第4週末には35,133円と4,400円下落した。生産支援に動く見通しの西日本電炉の動きも相場下落の歯止めとはならなかった。

■海外

国際相場は、中東情勢が不安定となったことからトルコからの引き合いが伸びず、相場は全体的に伸び悩む環境が続いた。米No.1ヘビーのトルコ向け輸出価格は1トンあたり440ドルどころから460ドルどころまで値上がりしたが、その後はリビア情勢などの影響を受け、様子見の推移に転じた。

東アジア市場も、3月に入りいったんは韓国ミルが米No.1ヘビーを1トンあたりCFR485～486ドルどころで成約。米シッパーは売り腰を強めCFR490～500ドルどころまでオファー価格を値上げしたものの、その後は様子見の展開で、先行き不透明な状況だ。

こうした中、日本玉の輸出価格は、折からの円高の影響を受け、国際相場に比べて割高感が強まったことから値下がりする展開となった。3月に入ると、韓国向けの輸出価格は1トンあた

りFOB39,000円を割り込み、第2週時点で37,000～7500円どころまで下落した。その後、震災影響で日本国内市場が大幅に下落したため、韓国ミルの指値は3万5000円を割り込む水準まで下落した。

■関東・東海埠頭

円高の影響による、日本スクラップ価格の割高感から、輸出市場は値下げする結果となった。また、震災による福島原発の事故を背景に、放射線問題が表面化、燃料問題と合わせて西日本向けの船送りも一時ストップする事態となった。このため関東湾岸の浜値は3月28日時点で、H2が1トン32,000～3000円中心、HS・新断が35,000～6000円中心へ下落した。その後、燃料問題が解決し、放射線問題も大きな問題に発展しなかったことから、西日本電炉からの手当ても回復しつつある。ただ、先行きは不透明な情勢だ。

東海地区の浜値は、3月28日時点でH2が1トン33,500円中心、新断が同38,000円中心となっている。

■非鉄

非鉄スクラップ相場は不安定な展開。初旬はやや上げ基調だったものの、リビア情勢悪化に伴う原油価格高騰への警戒感や、スペイン国債の引き下げなどによる欧州財政不安の再燃から海外相場が急落。LME銅価格は月初の9,900ドル台から10日には9,100ドル台まで下落した。つられて国内銅建値も1日の850円から徐々に引き下げられ、11日には810円まで下落。亜鉛、鉛建値も同様の動きとなった。

下落展開が続いていたところに東北関東大震災が発生。国内銅建値は更に引き下げられ、16日には800円を割り870円まで落ち込んだ。月半分で7万円値下がりしたことになり、市場は大きく混乱した。LME銅価格は下旬になってやや値を戻し9,500ドル台前後での推移。銅建値も23日現在で820円まで回復したものの、国内では原発事故による放射能漏れや、電力・燃料の供給不足など様々な問題が多発しており、先行き不透明な商環境が続いている。

18-8ステンレススクラップ相場は冴えない。NSSCが3月9日、山陽特殊製鋼が10日にそれぞれキロ当たり20円の月中下げを発表。両社の値下げに追随する形で、中部地区及び関東の特殊鋼電炉も順次、炉前建値下げを実施したことから、3月炉前建値は新切(SUS304)でキロ当たり195～200円見当に落ちた模様。

関西地区の専業・兼業問屋筋の仕切り値は3月24日現在、今月上旬に比べてキロ当たり20円がた値下がりし、新切はキロ当たり175～180円、同ダライ粉は155～160円どころに後退。口

◆若干旧聞に属しますが、昨暮れの12月28日に、京都府京丹後市に住んでおられる木村次郎右衛門という方が、百十五歳二五三日目を迎えられ、人類最年長者としてギネスブックに認定されたとの報道がありました。明治30年(1897年)生まれです。今現在では、百十五歳三十六日になっておられるはずですが、ちなみに、現在、世界の長寿第二位、第三位も日本人とのこと。長寿の秘訣を調べたある学者によると、次の3つを兼ね備えた人に長寿が多いようです。

一、好奇心旺盛で新し物好き
一、社交的
一、意志が強く誠実

さて、皆さんは長生きできそうですか？

◆とある雑誌の特集で、何人かの識者に「既に消えようとしているもの」を挙げてもらった結果、ブラウン管TV、電話帳、百科事典、写真フィルム、白熱電球(ED電球へ)があげられました。

また、「これからの半世紀に無くなるかあるいは衰退するもの」をあげてもらうと、切手貼付の配達郵便、アナログ時計(家庭用&腕時計)、トイレットペーパー(ウォッシュレットに)、デスクトップPC、家庭用固定電話、道路地図帳、音楽やゲームCD&DVD(インターネットから)、言語障壁(携帯通訳ソフトで)、ガソリンポンプ、名刺、貯金箱、パスワード、自動車運転手等があげられたとのこと。

(完)